



三重県立看護大学  
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



# MCN REPORT

2023.3 vol.54



## 大学院で学ぶ看護学

### contents

大学院看護学研究科の紹介 .....	1・2
学生のボランティア活動 .....	3
TOPICS .....	4
大学の出来事 .....	5
連携協力協定機関紹介（鈴鹿中央総合病院） .....	6



# 大学院看護学研究科の紹介

## 看護学を探究する

本学の大学院は、多様な看護ニーズに応える高度専門職業人としての看護実践者の育成、看護の質向上に寄与する看護管理者の育成、看護職者の養成と看護学の発展を担う看護教育者・看護学研究者の育成をめざし、修士課程として3つのコースを設置しています。

### 修士論文コース

様々な看護実践の現状と課題を明確にするための理論・研究・実践の諸概念を学び、看護学の発展に寄与する研究能力を身につけるコースです。

### 臨地教育者コース

臨床現場における教育者をめざすコースです。看護教育の現状と課題を明確にし、看護専門職や看護学生への適切な指導能力を身につけます。

### 専門看護師(CNS)コース

母性看護学、老年看護学及び精神看護学の専門看護師をめざすコースです。臨床現場のスペシャリストに必要とされる専門知識と看護実践能力を修得します。

### 13の教育研究分野

- 人文社会看護学分野
- 自然科学看護学分野
- 実践基盤看護学分野
- 看護教育学分野
- 看護管理学分野
- 母性看護学分野
- 小児看護学分野
- 成人急性期看護学分野
- 成人慢性期看護学分野
- 老年看護学分野
- 精神看護学分野
- 在宅看護学分野
- 公衆衛生看護学分野

## 研究科教学小委員長 中西 貴美子 教授からのメッセージ

### 大学院で学ぶ意義について

毎日の仕事に従事している中で、ふと、今行っている看護に対して、このままでいいのだろうか、と思うことはありませんか。また、将来、看護者としてどのようなキャリアを歩んでいくのか、迷ったことはありませんか。

大学院では、高度な看護実践力、高度な管理能力、それらを含めた研究力をもって社会の課題を解決しようとする学びができます。すなわち、大学院で学ぶことによって、起きている現象を様々な角度から丁寧に観ることで、現場での問題解決につなげることができます。また、教育力を高めることによって、個人だけでなく、組織（部署）全体の看護実践の質の向上に寄与することができます。それらを実践できる力を自ら獲得していくことで、今後のキャリアの充実を図ることになります。



### どんな人に進学を勧めたいか

毎日の仕事で悩んだり、迷ったりしている中であっても、その悩みや迷いに自分で考えて向き合おうとしている人に、キャリア選択の一つとしてお勧めしたいと思います。「迷ったら、学べ」とわれています。学ぶことによって自分で道を探すことができるようになりますからです。

また、看護の研究を続けていきたい、教育・研究職につきたいという人には、大学院進学は必須です。

大学としては以下のような能力や適性を受験する人に求めています。

- 看護上の様々な課題に関して主体的・自立的に探究しようという姿勢がある（修士論文コース）
- 後輩への教育に積極的な関心を持ち、臨地における役割上、教育的立場を取る必要性を認識している（臨地教育者コース）
- 看護の特定分野において、多様化・複雑化・高度化するニーズへの対応にやりがいと使命をもっている（専門看護師コース）

皆さんと共に学ぶことを楽しみにしています。



みかんちゃん

大学 HP に大学院の紹介動画を掲載しています。ぜひご覧ください！



# 教員&修了生インタビュー

小児看護学分野 **前田 貴彦 准教授**



## Q. 研究室のテーマは？

小児看護学です。院生の多くは、子どもや家族、小児看護に携わる看護師に関する研究に取り組んでいます。これまでに、きょうだいの面会の効果、障がいをもつ子どもの父親の生活、小児の痛みに関する看護師の認識、終末期の思春期患児への看護における困難感に焦点を当てた研究などを行いました。また、私自身が長年に渡り男性看護師に関する研究に取り組んでおり、小児看護学の研究室ではありますが、男性看護師に関する研究を希望する院生も受け入れています。

## Q. どんな研究指導をしますか？

個別指導とゼミを行います。特にゼミは、各自の研究疑問について、研究室の先輩や同期の院生を交え繰り返しディスカッションし、より良い研究計画を仕上げていく貴重な機会となるため、積極的に行っています。また、多くの院生が職業を有しており、長期履修制度や14条特例を活用して修学しています。そのため、院生の勤務を考慮し、夜間や休日にも指導を行うとともに、県外の院生や夜間の指導では、遠隔授業を積極的に取り入れています。院生からも「遠隔授業は、時間が有効に活用できる」と、好評を得ています。



令和2年度修了生 **坪谷 直樹 さん** (日本赤十字社 伊勢赤十字病院勤務)

## Q. 進学のきっかけは？

看護師として4年が経とうとした頃、主体的に看護研究を行う機会をいただきました。しかし、研究を進める中で、達成感よりも研究遂行能力の低さを痛感しました。この経験を機に、より高い専門性と確かな研究遂行能力を身に付け、臨床現場に還元したいとの思いに至り大学院への進学を決意しました。

## Q. 在学時の研究テーマは？

臨床現場で小児の痛みの看護に疑問を感じることがあり、大学院では、「子どもの手術後の痛みの訴えに対する看護師の認識」との課題で研究に取り組みました。

## Q. 大学院での学びはどのように活かされていますか？

大学院修了後は、病院内の看護研究に関する助言や研修会を開催する役割の一端を担っています。また、看護実践では、大学院で学んだ、現象の本質の捉え方や多角的な考え方が活かされた“私ならでは”の看護だと上司から評価を得ています。確かに大学院に行く前よりも根拠や物事の意味合いを深く考えて看護を実践することを意識するようになり、必要な資料や文献の検索も大学院での経験が役立っていると感じています。今後は、大学院での学びを“私ならでは”で止めることなく、多くの看護師に広めていくとともに、さらに学びを深めるためにも、機会があれば博士後期課程にも挑戦したいと考えています。

## 社会人でも学びやすい制度

本学では、医療機関や行政機関等で働きながら修了をめざす方に向け、社会人でも学びやすい制度を提供しています。

### 遠隔授業の実施

オンライン授業が可能な科目については、Microsoft Teams 等を利用した遠隔授業を実施しており、自宅等から講義を受けることができます。

### 長期履修制度

修士課程は通常2年の教育課程ですが、職業を有している等の理由で2年での修了が難しい方は、3年間で計画的に単位を修得することができます。その場合も、入学から修了までにかかる学費は、2年で修了する場合と変わりません。

### 教育方法の特例

大学院設置基準第14条を適用し、夜間や特定の時間・時期において授業や研究指導を受けることができます。





# 学生のボランティア活動

## 自主性を尊重し、支援する

本学では、学生が積極的にボランティア活動に参加できるよう、様々な取り組みを行っています。ボランティア活動に関する情報は、学生ボランティア活動支援委員会からメールや掲示板、本学のボランティア公式 LINE で随時提供しています。また、後援会からは、ボランティア活動に参加した学生を対象とした交通費の助成や、「みかんちゃんシール」の配付等の支援をいただいています。学生の皆さんがボランティアを身近に感じ、ボランティア活動により一層興味を持ってくれるきっかけとなることを願っています。

### 後援会からの支援

#### 交通費助成

ボランティア活動に参加し、交通費が発生した場合は、年間ひとり 1 万円まで助成があります。

※自家用車を利用した場合や通学定期を持っている区間の公共交通機関の利用時を除きます。

#### みかんちゃんシールの配付

ボランティア活動の参加時間に応じて「みかんちゃんシール」がもらえます。「みかんちゃんシール」を 10 枚集めると、500 円分の大学生協の商品券と交換することができます。



## LINKtopos 2022 に参加しました!

LINKtopos とは、年に 1 回、全国の公立大学の学生で組織される「公立大学学生ネットワーク」が主催する大会で、復興・被災・地域活動についてワークショップ等を行い、大学の枠を超えて学生同士が研鑽・交流します。本年度は、8 月 31 日（水）～9 月 2 日（金）の 3 日間、京都府の福知山公立大学で 3 年ぶりに対面形式で開催され、本学からは 1 年生の藤田葵さん、2 年生の石川みらいさんの 2 名の学生が参加しました。

### 参加学生インタビュー 1 年 藤田 葵さん

#### Q 参加のきっかけは？

LINKtopos に参加してみようと思ったきっかけは、災害が起きた時どのような行動をすべきかシミュレーションを通して学んでみたいと思ったから。そして、色々な考えを持つ人たちと関わってみたいと思ったからです。

#### Q 参加してどう感じた？

日頃は看護を学ぶ仲間たちと一緒に過ごしているので、どうしても看護の視点からの意見が多くなっていると感じることがあります。だからこそ、違うことを学んでいる人たちと交流することで、色々な発想や価値観を持つことができました。これからたくさんのボランティア活動にも参加し、様々なことについて学びたいです。

#### Q 経験を今後どう活かしたい？

ワークショップで「hug」※を体験し、災害時の避難所には様々な年齢の方や状況を抱えた方がやって来るため、避難所の運営にはたくさんの知識や判断力が必要となることを学びました。その中でも、病気を抱えた人をどこに誘導するのかを考えるうえで、病気の知識やその対処法などを知っておくことが重要だということを改めて感じました。この経験を活かして、実際に災害が起きた時に人を助けることができるのではないかと感じました。



左…石川さん 右…藤田さん

#### ※「hug」について

「避難者運営ゲーム」の略で、避難者の年齢、性別、国籍など、それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるのか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲームです。



## 新カリキュラム科目「総合課題探求I」

令和4年度からスタートした看護学部新カリキュラムでは、学生が物事に主体的に取り組み、課題を解決する能力を育む科目を設けています。その一つ、1年生の後期科目「総合課題探求I」は、看護専門職として倫理的な視点から現象を捉え、行動するための基礎的な能力を養うことを目的としています。

授業では、イントロダクションとして「倫理とは何か」を学んだ後、グループに分かれ、与えられた倫理的課題を探求し、それに対応するための検討方法を学びます。さらに、11月25日（金）、12月2日（金）の授業では、各グループが検討内容を発表しました。今回の授業について、担当の大川明子教授は、「単に講義を受けるのではなく、事例を探求する姿勢が学生自身に見られたので、本科目の開講には意義があった」と述べていました。

本年度は1年生のみで実施しましたが、令和7年度には4年生が履修する「総合課題探求II」が同時開講され、異なる学年の学生が同じグループで課題に取り組む予定です。



## 日本看護技術学会 卒業研究交流セッション最優秀賞

令和2年度看護学部卒業生の竹野絵理子さんが、日本看護技術学会第19回学術集会の卒業研究交流セッションで最優秀賞に選出され、11月5日（土）にオンラインで表彰式が行われました。発表の演題は「ストレス環境下における手浴のリラックス効果の検証－皮膚血流量・皮膚温・深部体温・主観的指標から－」です。

現在、竹野さんは保健師として活躍され、職場での取り組みを学会で発表する機会もあり、在学中における卒業研究への取り組みや、今回の交流セッションでの発表の経験を今後に活かしたいと話されていました。



## 開学25周年に寄せて ～卒業生からのメッセージ～

本学は、令和4年5月に開学25周年を迎え、前号のMCNレポート（令和4年12月発行）では、本学のこれまでの歩みをご紹介しました。

今回は、2名の看護学部卒業生の方に、本学での思い出についてメッセージをいただきました。



### 第1期生（平成12年度卒業）

#### 佐藤 千裕 さん（三重県庁勤務）

この度は、開学25周年ということで、おめでとうございます。

第1期生ということで、ずいぶん以前のことにはなりませんが、1期生ならではのエピソードがいくつか思い出されます。入学式の日に、工事が完了していないか何か（曖昧な記憶ですが）の理由でしばらく休校と言われたこと、その後学校が始まったものの、その分夏休みが短かったことなどが思い出されます。また、駐輪場の屋根がなかったため、何とかしてほしいことを学生課に話し、設置してもらったこともありました。

1年目の頃は、広い学校を1学年で自由に使わせてもらいましたし、先生方からも手厚く面倒を見ていただいたように思います。

その後、通学経路を含め、周りにお店や住宅など様々な建物が建ってきて、立派になってきたように感じます。今後ますますのご発展を願っております。

### 第10期生（平成22年度卒業）

#### 西山 修平さん（三重県立看護大学勤務）

この度は、開学25周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

在学中を振り返りますと、当時は男性看護師が増えてきており、同学年の男子学生も10名程いました。すぐに皆と打ち解け、グラウンドでサッカー、野球などで楽しんでいました。一方で授業や技術演習は難しいものでしたが、友人と協力し合い、空き時間に実習室で技術練習を行ったり、試験期間中はファミレスで夜が明けるまで勉強をしたりと大変でしたが、振り返ると良い思い出です。

また4年生の時には、全学年で男子学生が40名近くいたので、男子学生だけで「学年対抗球技大会」を催して学年関係なく絆を深めるなど、4年間の大学生活を精一杯謳歌したのが私の思い出です。

未筆ながら、今後も本学の一層の発展と皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## タイ王国マヒドン大学とのメッセージ交流

本学は、平成13年からタイ王国のマヒドン大学と国際交流協定を締結しています。コロナ禍で国際看護実習が中止となり対面での交流ができない中、交流の輪が途切れないよう、12月に本学の学生からマヒドン大学の学生に宛てて色紙でメッセージを送りました。一日も早くコロナが収束し、以前のように両校の学生が交流できる日を心待ちにしています。



## 三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会

12月18日(日)、特別選抜による入学予定者とその保護者を対象に、「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」を開催しました。この交流会は、入学予定者が本学卒業生や医療機関等の方との交流をとおり、看護職者としての将来像を具体的にイメージし、入学後の学修に対するモチベーションを向上させることを目的としています。

看護師・保健師として活躍する卒業生からは、大学生活や進路選択、現在の仕事について体験談をお話いただきました。また、県内13の医療機関等の方々にもお越しいただき、入学予定者と個別に相談を受けていただきました。

参加者からは、「学生生活をどのように過ごせばよいか参考になった」、「各病院の特徴を知ることができ、実習や勤務からの具体的なイメージを持つことができた」などの声をいただきました。



## 卒業研究発表会・修士論文発表会

### 令和4年度卒業研究発表会

12月23日(金)に令和4年度卒業研究発表会を開催しました。

卒業研究では、教員の指導のもと、およそ8か月かけて自身の関心のあるテーマについて研究計画書の作成、データ・資料収集、分析、論文執筆を行います。

本年度は4年生100名が、会場に集まった教員や学生を前にそれぞれの研究成果を発表し、質疑応答も行われました。

4年生の皆さんには、卒業後も研究に関心を持ち続け、看護職として活躍してほしいと思います。



### 令和4年度後期修士論文発表会

1月18日(水)に令和4年度後期修士論文発表会を開催しました。

修士論文発表会での発表や質疑応答は、学位論文審査の一部となります。本年度後期は、修士論文コース5名、専門看護師(CNS)コース1名の計6名が、それぞれの教育研究分野における研究について発表を行いました。

修了後は、大学院での研究の成果を実践へと繋ぎ、さらなる看護学の探求と発展に寄与することが期待されます。

## 開学25周年記念 第3回公開講座

1月7日(土)、開学25周年記念 第3回公開講座を開催しました。今回は、車いすランナーの伊藤智也氏(バイエル薬品株式会社所属)を講師にお迎えし、「誇れる過去は、諦めない今がつくる」をテーマにご講演いただきました。

講演では、講師の人生経験、車いすランナーとしての経験を振り返りながら、常に目標を持つこと、諦めずに努力し続けることの大切さなどをお話いただきました。参加者からは、「とても元気になりました。私も1日1日大事にして生きていきます」などの感想があり、大変ご好評でした。

当日は、88名の県民の皆さまにご来場いただき、オンライン参加の卒業生、在校生等を合わせて、207名のご参加がありました。

これもちまして、本年度の公開講座は終了となります。本年度も多くのご参加をありがとうございました。次年度も全3回の開催を予定していますので、ぜひご参加ください。





## 鈴鹿中央総合病院

地域の皆様に信頼される病院づくり

— “進化” する医療、“寄り添う” 看護 —



鈴鹿中央総合病院は、地域の中核病院として急性期医療を行う役割を担っています。地域住民のニーズに応えるために、救急センターの拡充、最先端治療が提供できる内視鏡センター、そして令和4年度は血管造影室を拡充しIVR（画像下治療）を拡大します。設備の充実とともに、「救急医療」「断らない救急」「がん医療」「全人的ケア」に注力し、高度で良質な医療・看護を提供し、地域の皆様に信頼される病院づくりに職員が一丸となって取り組んでいます。

看護部のビジョンは、「すべての人に“寄り添う”ことを大切にした看護」を掲げています。めざす看護師像は、高度な知識・技術は勿論のこと、豊かな人間性を兼ね備えた自律した看護師です。看護師育成には、JNA ラダーとリンクしたキャリアラダー制度（SGH 看護継続教育システム）を運用し、自分になりたい看護師像に向かってキャリアを伸ばせるよう支援しています。昨年度は、静脈注射認定看護師（IVナース）制度を本格導入し、看護師全員が知識と技術を修得（技能レベルⅡ認定バッジを付与）し、安全・安楽な看護が提供できるよう取り組んでいます。一人ひとりが看護実践能力を高め、人を思いやる感性や高い倫理観を養いながら成長できる環境づくりを大切にしています。

現在、連携協力協定病院として、臨地実習の場として活用していただいています。また、人事交流としての職員派遣や大学院を通じて、基礎教育の場と臨床の場を繋ぎながら看護学の発展、指導者の育成に活かしています。今後も連携を深めることで、看護の質が保証できる看護師の育成に努めていきます。

（看護部長 喜多村 邦子）



### 病院情報

三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿中央総合病院（昭和13年5月開設）

● 病床数：一般病床 460 床（うち緩和ケア病床 20 床）

● 診療科目：27 科

内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、血液・腫瘍内科、呼吸器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、精神科、麻酔科、皮膚科、放射線治療科、放射線科、リハビリテーション科、神経内科、眼科、呼吸器外科、心血管外科、リウマチ科、病理診断科、緩和ケア内科

● 職員数：職員数 932 人（うち看護師 482 人） 令和4年4月1日現在



IVナース認定制度  
技能レベルⅡ認定バッジ

## 連携協力協定機関一覧

### 県内12病院・2市

● 三重県厚生農業協同組合連合会  
鈴鹿中央総合病院

● 社会医療法人畿内会 岡波総合病院

● 伊賀市立上野総合市民病院

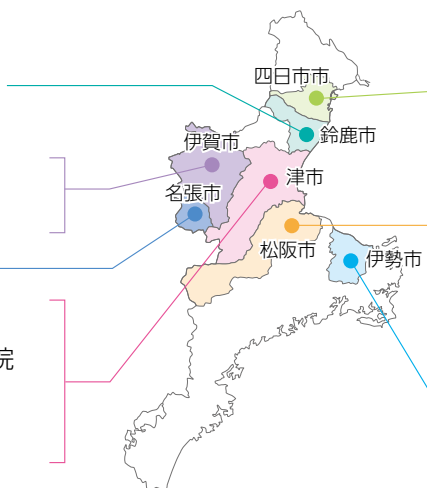
● 名張市

● 三重県立こころの医療センター

● 独立行政法人国立病院機構三重病院

● 三重県立一志病院

● 津市



● 地方独立行政法人  
三重県立総合医療センター

● 松阪市民病院

● 社会福祉法人恩賜財団  
済生会松阪総合病院

● 三重県厚生農業協同組合連合会  
松阪中央総合病院

● 日本赤十字社 伊勢赤十字病院

● 市立伊勢総合病院

## さらなる発展と人材育成の充実に向けて ～学生支援のための基金への寄付のお願い～

本学が本年度で開学 25 周年を迎えたことを記念し、広くご寄付を募らせていただいたところ、医療関係機関、卒業生、保護者の皆様、本学教職員など、多数の方々にご賛同をいただきました。心より御礼申し上げます。

ご寄付いただきました方々に重ねて感謝申し上げますとともに、今後も一人でも多くの学生支援を行い、保健医療の現場で活躍する優秀な人材を養成し、本県の保健・医療・福祉の向上に貢献していく所存です。

つきましては、今後も本学の教育理念と使命に関し、ご理解、ご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ■ 寄付金受付状況 (R4.4.1 ～ R5.2.10 分)

件数 24 件 寄付額 1,064,100 円

### ■ 令和 4 年度活動経過

入学時奨学給付金（みかん大進学支援給付金）を本年度入学生 5 名に対し、各 20 万円支給しました。

お問い合わせ 事務局財務・運営課  
電 話 059-233-5600

## 広告



東京の医療を四日市で  
Yokkaichi Digestive Disease Center

## 編集後記

Vol.54 となる今回は、大学院看護学研究科についてご紹介しました。本学は、これから看護職をめざす学部生だけでなく、看護職としてさらなるレベルアップをめざす方にも充実した教育を提供できるよう取り組んでいます。

また、学生のボランティア活動や、看護学部の新カリキュラム科目、卒業生の表彰についてもお届けしました。

紙面を通して、本学の様々な取り組みをお伝えできればと思います。

(メディアコミュニケーションセンター委員会)



本学マスコットキャラクター  
「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大（みかんだい）」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。

## 公立大学法人 三重県立看護大学

〒 514-0116  
三重県津市夢が丘 1 丁目 1 番地 1  
TEL 059-233-5600(代)  
FAX 059-233-5666  
<https://www.mcn.ac.jp/>



本学は、「大学基準協会」の定める大学基準及び「日本看護学教育評価機構」の看護学教育評価において「適合」の認定を受け、大学及び看護学教育の質について保証されています。